

喀痰の吸引につきましては、看護師を中心に全職員で、有田和子様のご様子を伺いながら対応させていただいております。詳細につきましては、「在宅療養手帳」に記載させていただきまます。

喀痰の吸引以外についても、可能な限り皆さんと一緒に過ごしていただけるように考慮し、対応させていただいております。

至らぬ点が多々ありますが、職員一同頑張っていきたいと思っております。ご多忙の折りではございますが、風邪など召されませぬようにご自愛ください。



平成27年12月25日

デイサービスなごみの郷

阿久根 猛

## 2、家族会議に際して（2015年12月15日）

### 【コメント】

それは、「胃ろう」（PEG）の造設をするか、どうか、の、決断につぐ悩ましい問題だった。

実際、退院当時は、喀痰の排出がすぐくて、頻繁に吸引しなければならなかった。が、鈴木主治医の抗生物質処方のお陰で、数日後には落ち着いてきて、咽喉のゴロゴロもなくなった。すでに、年を越して3ヶ月、2月の寒い日も吸引なしで過ごしてきた。

が、「気管切開」については家族間の意見の一致をみる必要があった。家族会議は、電話参加の美智子姉をふくめて四人。

この文書は、12月15日の会議にあわせて作成したもので美智子姉の意見も含まれている。

当日は、たいした論議もなしに、この方針で行くことを確認した。